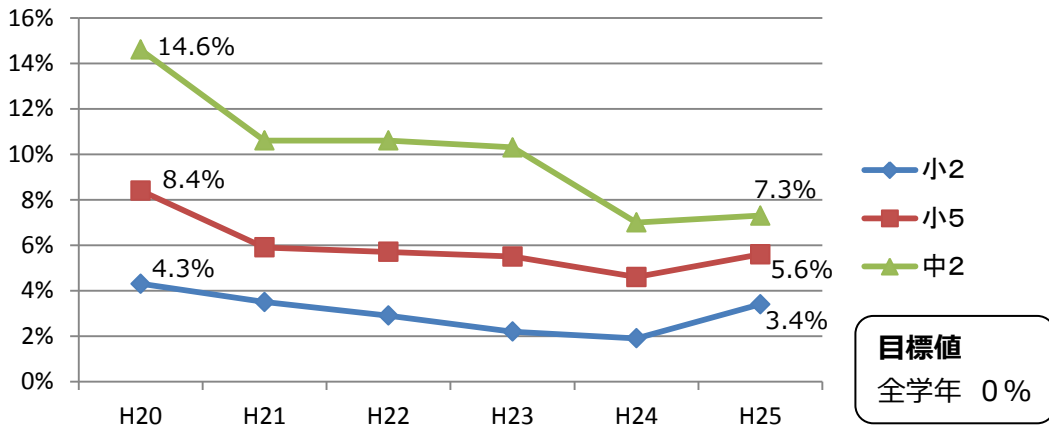


1 第1次計画成果目標の達成状況

○本を読まない子ども^{ゼロ}を目指します！

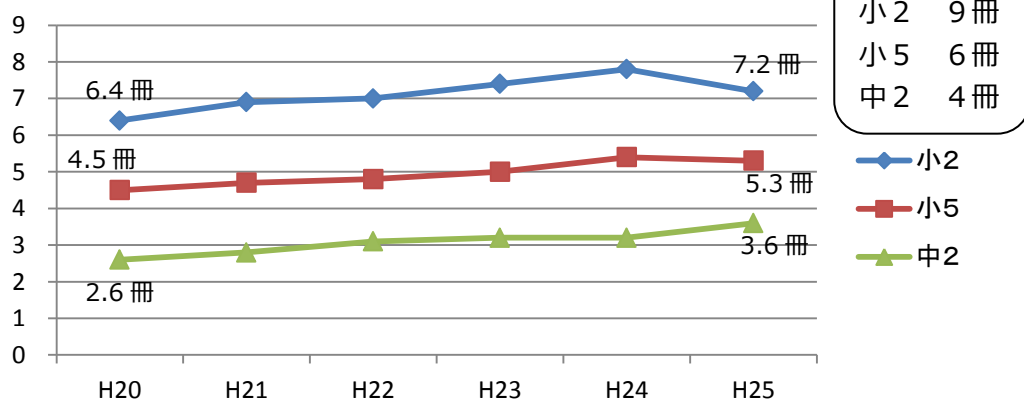
(1か月間の読書冊数が0冊の子どもを減らします)



学校における朝読書などの取組により、小学2年生で4.3%から3.4%（目標達成率96.6%）、小学5年生で8.4%から5.6%（同94.4%）、中学2年生14.6%から7.3%（同92.7%）と、それぞれ数値が改善しています。国の平均値（小学生4.5%、中学生16.4%/平成24年度）と比較しても、本を1冊も読まない子は少なくなっていますが、目標達成には至りませんでした。

○子どもの読書量を増やします！

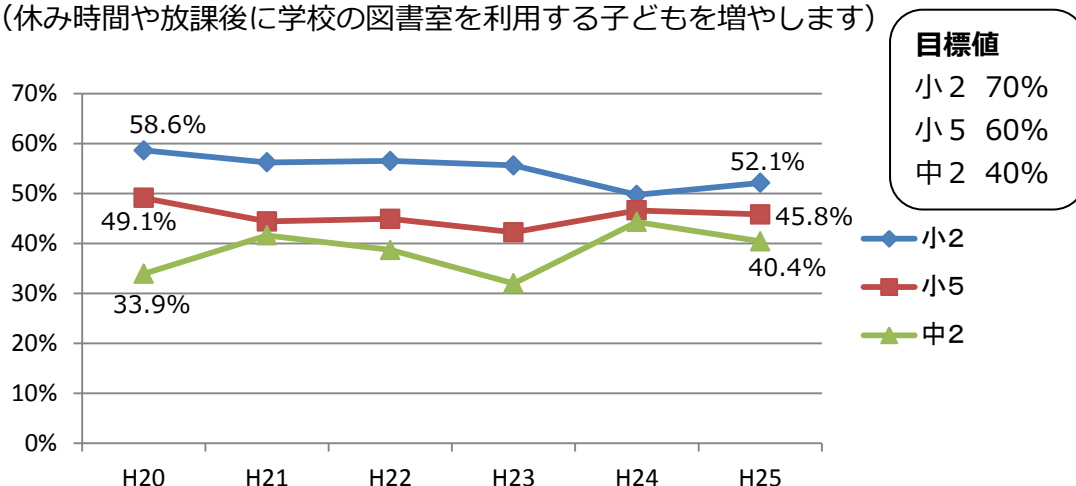
(子どもの1か月あたりの平均読書冊数を増やします)



小学2年生で6.4冊から7.2冊（目標達成率80.0%）、小学5年生で4.5冊から5.3冊（同88.3%）、中学2年生で2.6冊から3.6冊（同90.0%）と、それぞれ数値が改善しています。月に10冊以上読む子が小学2年生で40.6%、小学5年生で20.4%と、本をたくさん読む子がいる一方で、ほとんど読まない子もいることが、目標を達成できなかった要因になっていると考えられます。

○学校図書館を利用する子どもを増やします！

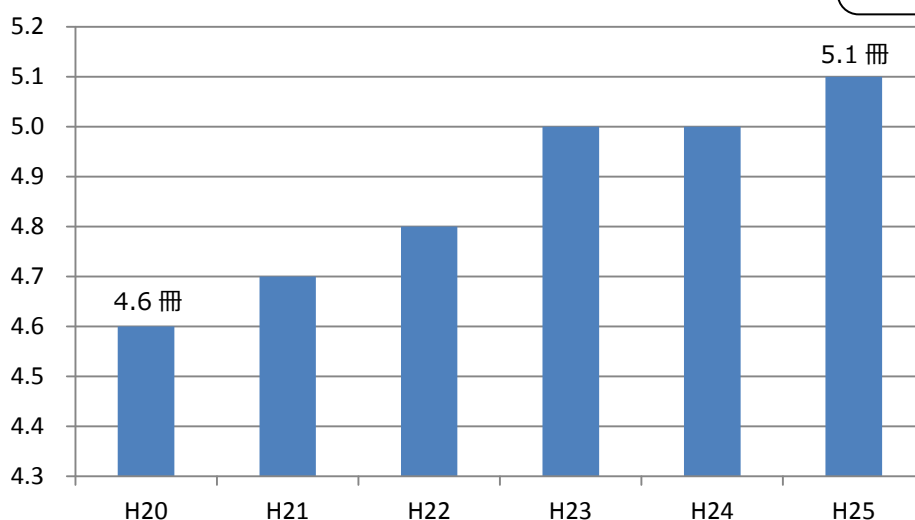
(休み時間や放課後に学校の図書室を利用する子どもを増やします)



中学2年生では33.9%から40.4%と数値が改善し、目標を達成できましたが、小学2年生では58.6%から52.1%（目標達成率74.4%）、小学5年生では49.1%から45.8%（同76.3%）と、逆に数値が下がってしまいました。これは、児童の安全確保のため、放課後は速やかに下校させていることや、体力作りのため、休み時間は外遊びをするよう指導していることなどが影響していると考えられます。

○市立図書館の子どもの本を増やします！

目標値
1人あたり 6冊



計画的な蔵書購入により、子ども1人あたりの児童書数は、4.6冊から5.1冊に増えました。児童書の総蔵書数で見ても、269,084冊から290,163冊に増えています。しかしながら、図書の購入にあたっては、限られた予算の範囲内で多様なニーズにこたえる必要があり、目標達成には至りませんでした。

2 第1次計画期間における取組・成果

第1次計画期間における主な取組とその成果を以下に示します。なお、計画の体系に沿った全ての取組・成果・課題の一覧につきましては、別途、資料編に掲載しております。

I 子どもの読書環境の整備・充実

- ▶ 保健センターにおいて、絵本を通じた親子のふれあいで育児を楽しむことを推奨するリーフレットを作成し、平成23年度より、出産後の全戸訪問事業の際に配布しはじめました。また、平成24年度より、母親学級の際に、図書館が作成しているリーフレット「赤ちゃんにえほんを」の配布を開始したほか、絵本の読み聞かせ*体験をプログラムとして取り入れました。
- ▶ 平成24年度より、健康日本21所沢市計画から発足した「お母さんといっしょ。とことこプロジェクト」（保健センター所管）の一環として、BCG接種の待ち時間を利用した「はじめてのおもちゃ・絵本コーナー」を設置し、ボランティアによる絵本の読み聞かせと手作りおもちゃの紹介を開始しました。また、4か月児健康診査の際に、図書館が作成している乳幼児をもつ保護者向け「としょかん利用案内」を配布しました。
- ▶ 図書館において、年齢に応じたおはなし会やかがくあそび、工作教室を実施しました。このほか、季節にあわせた特別行事を実施しました。
- ▶ 各保育園・幼稚園において、絵本の貸し出しや園だよりによる啓発、絵本の読み聞かせ等を実施しました。



ボランティアによる読み聞かせ（三ヶ島小学校）

- ▶ 各小中学校において、朝読書やボランティアの協力による読み聞かせ等を実施したほか、環境整備ボランティアの協力により学校図書館や学級文庫の充実を図りました。全校一斉読書活動*を実施する学校の割合は、平成23年度に100%になりました。
- ▶ 各小中学校の学校図書館において、夏季休業中の貸出冊数を通常より増やす、夏季休業中の図書館開館を実施する等、各校の状況に応じて長期休暇期間中の読書活動推進に努めました。

*読み聞かせ：本を見せながら、読んで聞かせること。

*全校一斉読書活動：小中学校において、朝読書など、時間を決めて全校一斉に読書をする活動。

- ▶ 全中学校に加え、平成 23 年度より大規模小学校 2 校に学校図書館司書補助員*を配置しました。これにより、学校図書館の利用人数・貸出冊数が増加しました。
- ▶ 各児童館において、本の貸し出しやおすすめ本の紹介、おはなし会等を実施しました。
- ▶ 各公民館が実施する子育てサロン・子育て講座等の際に、絵本の紹介や読み聞かせを実施しました。

II 家庭・地域・学校等の連携、推進体制の整備

- ▶ 市内小学校 3 学年全学級および希望する他学年の学級に対し、図書館司書*による学級訪問（ブックトーク*）を実施したほか、図書館見学・職場体験の受け入れを実施しました。
- ▶ 小中学校・図書館間に連絡業務便を運行し、調べ学習・総合的な学習の支援や、学級文庫の充実のため、学校団体貸出*を実施しました。
- ▶ 平成 24 年度に、司書教諭*の資質向上のための研修会を実施しました。また、平成 21 年度、23 年度、25 年度には、学校図書館司書補助員に対しても研修会を実施しました。
- ▶ 児童館乳幼児担当者研修会の機会を利用して、わらべうたの研修（平成 24 年度）、絵本読み聞かせ講座（平成 25 年度）を実施しました。
- ▶ 平成 25 年度に、保健センターにおいて、健康日本 21 所沢市計画の取組の一環として絵本の読み聞かせボランティアを対象とする講習会を開催しました。
- ▶ 図書館と小中学校及び高等学校図書館との情報交換会を実施しました。



小学 3 年生の教室を訪問してのブックトーク

-
- * **学校図書館司書補助員**：図書館担当職員（司書教諭）の補助として、学校図書館の図書の整理、図書館活用の情報宣伝、図書館利用授業の補助、図書の貸出の補助等を行う臨時職員。
 - * **司書**：図書館に置かれる専門的職員。図書館の管理・運営、資料の収集・整理・保管、閲覧・貸出・レファレンスサービス（利用者の調べもののお手伝い）等の、図書館に固有の専門的業務に従事する。
 - * **ブックトーク**：本に対する興味と関心を呼び起こすため、テーマを決めて、読み聞かせ等を交えながら数冊の本を紹介すること。
 - * **学校団体貸出**：学級文庫や総合学習等に利用するため、1 学級につき 40 冊まで本を借りることができるサービス（貸出期限：1 か月）
 - * **司書教諭**：学校図書館の専門的職務を担うために、教諭のうち司書教諭資格を有する者の中から、学校図書館法により発令される職。

- ▶ 図書館において、読み聞かせボランティア向けの手引きを作成・配布したほか、読み聞かせボランティア講座（平成 21～23、25 年度）、ストーリーテリング*入門講座（平成 25 年度）、本の修理講習会（平成 23 年度）等を実施し、ボランティアに対する支援を行いました。
- ▶ 生涯学習情報紙「翔びたつひろば」やまちづくりセンター（公民館）だより等を活用して、地域団体による子どもの読書活動推進に関わる催し物等についての情報提供を行いました。
- ▶ 平成 25 年度に、「所沢市生涯学習ボランティア人材バンクフェア」を開催し、その中で子どもの読書に関する講座を実施しました。
- ▶ 関係機関間の情報交換・連絡調整のため、平成 21 年度より「所沢市子どもの読書活動推進連絡会」を設置し、毎年定期的を開催しました。

Ⅲ 子どもの読書活動への理解や関心の普及・啓発

- ▶ 「子ども読書の日」の普及のため、図書館においてボランティアの協力によるおはなし会等の行事を実施しました。
- ▶ 図書館において、年齢に応じたブックリスト*を毎年作成・配布し、紹介した本の展示を行いました。
- ▶ 「広報ところざわ」（平成 23 年 1 月号）に、子どもの読書推進計画についての記事を掲載し、市民への計画の理解・普及を図りました。
- ▶ 生涯学習推進センターにおいて、平成 23 年度から、大学との連携共催により、子どもの読書活動に関する講座を開催しました。

3 第1次計画期間における課題

I 子どもの読書環境の整備・充実

- ▶ 各小中学校の学校図書館や学級文庫の蔵書数がまだ十分ではなく、学校図書館図書標準*の達成率は、平成 24 年度の時点で、小学校 99.5%、中学校 95.7%となっています。これは、国の平均値（小学校 56.8%、中学校 47.5%/平成 23 年度）と比較すると高い水準にありますが、古くなった本も多く、学校図書館の利用を促進するためには、魅力ある蔵書をさらに豊富に揃えていくことが重要です。

*ストーリーテリング：物語（お話）を覚えて語ること。

*ブックリスト：読書を薦めたり本を紹介したりするために、図書館等で年代別・項目別等に分けて作成する本のリスト。

*学校図書館図書標準：文部科学省が定めた、小中学校の学校図書館の蔵書についての、学校規模（学級数）に応じた整備目標。

- ▶ スペース等の問題により、安定した読書環境が作れていない施設があります。また、限られた予算内で、新刊図書を十分に購入することが困難なため、各施設の子どもの本のコーナーの図書は古くなったものが多く、子どもたちが読みたいと思う本に出合いにくい状況です。
- ▶ 公民館等において活動する読み聞かせボランティア等の人材が不足しています。また、読み聞かせや本の修理等の研修をさらに充実させ、ボランティアの資質向上を図る必要があります。
- ▶ 学校により、学校図書館の蔵書管理体制の整備状況に差がある状況です。
- ▶ 学校ごとに作成している、図書館を活用するための計画に基づいて、学校図書館を活用した取組をさらに充実させていく必要があります。

II 家庭・地域・学校等の連携、推進体制の整備

- ▶ 所沢市子どもの読書アンケート調査によると、年齢が上がるにつれて、本を読む冊数、図書館を利用する頻度が減少する傾向にあり、特に、興味や関心が広がる中学生・高校生世代において「読書離れ」が顕著になっています。しかし、心身の成長が著しいこの世代は、読書に対する興味を持てれば、自発的に豊かな読書体験を積むことができる年代でもあります。学校団体貸出を充実する等、中学校・高等学校等との連携を密にしながら、限られた予算の中でどのように中学生・高校生世代の読書活動を支援していくかが課題となっています。

III 子どもの読書活動への理解や関心の普及・啓発

- ▶ 乳幼児健診・母親学級等、さまざまな機会を利用して保護者への啓発に努めていますが、価値観が多様化する現代社会においては、読書習慣の身につけている子とそうでない子の差が大きくなっています。いかにより多くの保護者に子どもの読書活動の重要性を理解していただくかが課題となっています。
- ▶ 子どもたちの成長には、幼稚園・保育園、学校、家庭以外にも、公民館、児童館、図書館など、さまざまな機関が関わっています。これら子どもに関わる各機関や関係者に対し、子どもの読書活動についての理解や関心をさらに普及・啓発していくことが必要です。

